

三田尻鹽務局

長府出張所之部

三田尻鹽務局長府出張所ノ部

第一章 鹽田位置、方位及附近ノ地勢、地形

字部千鳥濱鹽田ハ豐浦郡王司村大字字部第七百廿番地ヨリ同第七百七十九番ニ亘リ東北ヨリ西南ニ向ケ縱三百間西北ヨリ東南ニ向ケ横二百五十間ノ長方形ヲナセリ當鹽田ハ北方五丁餘ニ於テ神田川及木屋川ノ末流ヲ控ヘ西方ハ王司村字部村落ヲ隔ツル二十丁餘ニシテ四方司山脈峨々トシテ空中ニ聳ヘ以テ西域ヲ杜絶シ南方ハ同字龜濱及長府村字古濱ヲ隔テ、長府村豐浦町ニ向ヒ東北及西南二面ハ周防灘ニ濱ス其地形ハ東北ヨリ西南ニ長ク西北ヨリ東南ニ短キ長方形ニシテ東北東南西南三面ハ腰石垣ノ堤防ヲ回ラシ只西北一面ハ陸地ナルヲ以テ巾五尺ノ惡水溝ヲ設ケテ分界ス而シテ當濱鹽田地面ヲ縱百三十三間横三十八間ノ長方形十二濱ニ區分シ各々貯水場一箇所釜屋及鹹水臺坪、濱子小屋各一棟ヲ建設附隨セシム鹽田地盤高低ハ東南端ニ分界シ海水面ヨリ底キ事約四尺ニシテ漸次陸方ニ接スル濱ニ從ヒ高クナリ西北端ノ濱ニ至ツテハ右濱ヨリ高キ事三尺ノ差アリ

第二章 鹽業ノ沿革

當濱ハ元ト遠淺ノ海濱ナリシヲ明治三年長府村子爵毛利氏起工シ同四年落成同村字部坂野良造(毛利氏舊藩士)所有ノ名儀ニテ爾來製鹽ヲ繼續シ來リタルヲ昨年毛利子爵(長府舊藩主毛利元敏氏)所有ニ名儀改正ス所有名義ハ阪野某ナルモ其實舊藩主ノ所有ナレハ保護獎勵等事ナキハ勿論ナリ

第三章 製鹽方法

潮水ヲ溝渠ニヨリテ鹽田ニ引入レ鹽田ニ吸收セシメ當溝潮ヲ撒布シテ鹹砂ヲ作り沼井中ニ於テ鹽分ヲ浸出セシメ以テ鹹水ヲ得之ヲ煎熬ス

甲 鹹水採收

(十六) 三田尻鹽務局長府出張所ノ部

第一章 鹽田位置、方位及附近ノ地勢、地形
第二章 鹽業ノ沿革
第三章 製鹽方法 甲 鹹水採收

調査標準地(宇部千鳥濱十番但シ當濱中、中田ト認ム)

一 鹽田ノ種類及面積 鹽田ハ入レ濱法ニシテ一町七反七畝十一歩(鹽田内溝渠モ含ム)外ニ釜屋、倉庫、納屋、敷地一

反二畝廿五歩

二 堤防ノ面積、高低及築造材料

(イ)堤防面積 百五十二坪(縦三十八間巾四間)

(ロ)高 低 外側即チ海底ヨリ高さ二間一尺 内側ハ鹽田ヨリ高キ二間一尺

(ハ)築造材料 外側即チ海邊ハ石垣ヲ以テ築キ上ケ内部及内側ハ土砂ヲ以テ築キタル上之ニ芝ヲ植ヘ付ケ築造シタルモ

ノナリ

三 鹽田内溝渠ノ面積

(イ)面 積 四百三坪六合

(ロ)長 サ 八百六十五間但シ縦百三十一間半 六節
横三十八間 二節

(ハ)巾 二尺八寸

(ニ)深 サ 二尺三寸

(ホ)各溝渠間ノ距離 七間二尺四寸

(ヘ)暗 渠 暗渠ト稱スルモノナシ

四 撒砂(鹹砂)浸出装置(沼井又ハ臺等)ノ構造、面積、個數、大小、高低、配置、施設 當濱ニハ鹹砂濾過装置ヲ沼井臺ト

稱ス沼井臺構造ハ地盤ノ上ニ赤土三寸平均ヲ置キ横邊二方及中央ノ三ヶ所ニ巾一尺二寸長サ五尺五寸厚サ一寸ノ松板ヲ横邊トシ縦兩邊ハ赤土ニテ邊ヲ作り内部ノ構造ハ右地盤赤土ノ上ニ根座木トシテ松丸太六寸宛トシ其上ニ七寸竹ノ二ツ割ヲ同シク六本宛ヲ交叉形ニ敷キ詰メ尙其上ニ沼井菰(藁製)ヲ敷キ鹹砂ノ洩レサル装置ニナセリ而シテ四邊ノ外部ニハ土砂ヲ

以テ厚サ五寸餘リ腰堤ヲ附ケ風雨ノ爲メ損傷ヲ妨ク爲ナリ又碇子(藁製)ト稱シ沼井臺ニ鹹水ヲ詰メ込ミタル後潮水ヲ汲ミ込ムモノトス尙兩腰根ニ二個ノ壺アリ之ヲもんだれ壺ト云フ

以上臺中ニ鹹砂ヲ詰メ込ミ是ニ潮水ヲ汲ミ込ム時ハ其水鹹砂ニ附着スル鹽分ヲ吸收シテ沼井臺ノ底内ニアル根座木ノ隙ヲ傳ヒテ兩側ノもんだれ壺中ニ濾出スル裝置ナリ

沼井臺ノ面積ハ百八十坪但一臺ニ付二坪(縦二間 横一間) 九十臺ヲ有シ地面ヨリ高キ事一尺七寸配置ハ一濱ノ溝渠ヲ以テ五區

ニ區域シ一區域ニ十八臺(五區域ニテ九十臺)ヲ備ヘ五間毎ニ一臺ツ、ヲ配置セリ

五 撒砂(鹹砂)貯藏裝置、構造、大小、面積及鹹砂ヨリ鹹水ヲ採收スル方法 當濱ニハ鹹砂貯藏裝置ナルモノナシ撒

砂ハ毎年十二月休業中吉敷郡秋穂村大字大海ヨリ買入レ從來使用撒砂ニ混シ置クモノナリ之ヲ入レ更エ土ト云フ右撒砂ヲ買入レタル時ハ在來使用撒砂ト混シ之ヲ三分シテ其一部ハ鹽田内裝置ノ沼井臺ノ肩ニ盛り立テ一部ハ地面ニ撒布シ一部ハ沼井臺中ニ入レ置クナリ而シテ始業ニ及ヒテハ沼井臺中ニ鹹水ヲ汲ミ入レ鹹砂ヲシテ濾過セシメタル後沼井臺中ノ骸砂ヲ掘出シテ沼井堤ノ肩ニ盛り立テ地面ノ鹹砂ヲ沼井中ニ入レ以前ヨリ沼井肩ニ盛りアル骸砂ヲ地面ニ散布シ以テ採鹹ヲナセリ斯ク循環的三部ノ鹹砂ヲ使用ナシ一ケ年間之ヲ持續シ其年十二月休業ニ至リ撒砂購入ヲナスヲ以テ其間鹹砂ヲ貯藏スル事ナク隨テ別ニ裝置ヲ施スコトナシ

當濱ノ採鹹ハ陰曆二月末ヨリ始業スルニアリ鹹砂ノ一部ヲ地面ニ撒布シアルヲ以テ之ヲ堀起スル爲メ第一仕入濱ヲナシ第二朝鍬第三持目ヲナシ而シテ鹹水ヲ採取スルナリ左ニ詳述セン

第一仕入濱 カナ子ニテ第一横一度第二フタくわあばゑ第三縦以上三度引廻シ濱引ニテ横二くわなばね(金子引ト同シ)

以上三度引廻ハシ大ねだヲ以テ之ヲ引廻ハシ土塊ヲ碎キ又濱引ニテ前述ノ通り三度引廻ハシ而シテ引板ヲ以テ一度其上ヲ引廻ハシ(是ヲ板掛ト云フ)樋閘ヨリ潮水ヲ引入レ打柄杓ニテ潮水ヲ打掛ケ同夜ハ小樋閘ヲ閉シテ一夜潮水ヲ溝渠ニ溢貯シ翌朝ニ至ル

第二朝鍬(二日目) 右ノ通りニシテ翌朝ニ至レハ午前六時ヨリ濱引ニテ横其他以上三度引廻ハシ後板掛ヲナシ潮水ヲ掛ケ八時頃溝渠ノ汐水ヲ開ヨリ除去シ乾燥セシメ午後一時ヨリ濱引ニテ横縦引廻ハシ午後五時迄乾燥セシメ同時ヨリ板掛ヲナシ其儘翌朝ニ至ル

第三持目(三日目) 午前八時沼井堀ヲナシ午前十一時頃ニ濱引ニテ一度引キ十二時ヨリ一鍬なばヘヲナシ一時間後縦一度引キ三十分後沼井廻(入レ鍬ニテ地盤上甲沼井臺ト乙沼井臺トニ入ルヘキ鹹砂ノ量ヲ分割スルモノ)ヲナシ寄板ニテ寄土ヲナシ沼井ニ掬ヒ込ミ女日雇ヲシテ沼井踏ミヲ爲シメ(此間男ハ沼井肩ニアル一部ノ更ヘ土ヲ地盤ニ撒キ散ラス)然ル後潮水六荷ヲ汲ミ込ムトキハもんだれ壺ニ一方一荷半宛鹹水瀘出ス依テ比重計ヲ以テ比重ヲ取りテ然ル後擔桶ニテ鹹水ニ擔ヒ入レ桶管ヲ通シテ貯鹹場ニ送ルモノトス

六 鹹水輸送装置、構造、面積及輸送ノ方法 鹹水輸送装置ノ構造ハ別紙圖面ノ通り地面ノ障害トナラサル溝ノ上ニ高

サ五尺ノ丸木四本ヲ立テ柱トナシ各足堅メヲ作り上ニ厚サ一寸板ヲ以テ縦六尺横五尺深サ一尺三寸ノ箱ヲ作り同箱ノ底ニ小穴ヲ穿テ大ナル竹ノ樋管ヲ附シテ地盤ニ垂下セシメ夫レヨリ貯鹹場ニ向ケテ樋管ヲ地盤内ニ埋メ以テ貯鹹場ニ通セシム尙同箱ノ兩邊ニ地面ヨリ板橋ヲ架シもんだれ壺ノ鹹水ヲ荷桶ニテ擔ヒ右橋ヲ上リテ箱内ニ移セハ底中ノ穴ヨリ下リ地下ノ樋ヲ傳ヒテ貯鹹場ニ至ル装置ニシテ此箱ヲ鮫鱧ト云フ

七 採鹹用器具ノ名稱、種類、員數、構造、大小、形狀、効用及使用ノ方法

名	稱	員數	構	造	效	用	使	用	方	法
加	な	二	二	二	二	二	二	二	二	二
濱	引	七	七	七	七	七	七	七	七	七
根	座	一	一	一	一	一	一	一	一	一
引	板	三	三	三	三	三	三	三	三	三

打柄杓	六	杉板ニテ作ル	汐水チ鹹砂ニ打込ム用	其ノ柄チ手ニ握リ使用ス
もんだれ柄杓	六	同	もんだれ水チクミ出ス時使用	同
沼井堀鍬	七	樫板ニ作り先ニ金先ヲ附ス	沼井ノ鹹砂チ掘リ出ス爲メ使用	同
振鍬	七	同	鹹砂チ地盤ニ振り撒ク爲メ使用	同
入レ鍬	七	松板ニテ作り齒先ニ樫板ヲ附ス	鹹砂チ沼井ニ入レル時使用	同
寄セ板	七	樫板ニテ作り五尺ノ柄ヲ附ケリ	鹹砂チ寄スル時使用	同
荷桶	七	杉板ニテ作ル	鹹水又ハ汐水チ運フ爲メ使用	繩ノ緒チ附シ擔ヒ棒ニテ擔ヒ使用ス
鎌	七	金及木ニテ作ル	濱引ノ竹子ノ先チ削ルニ用ユ	片手ニ其柄チ握リテ使用ス

八 採鹹用器具ノ新調費及保存期限

名	稱	新調費	保存期	以上保存期中修繕費及度数	名	稱	新調費	保存期	以上保存期中修繕費及度数
か	あ	一七〇〇	一ケ年	修繕費 一回一圓宛二回	土	振	九〇〇	一ケ年	修繕費 一回五錢宛三回
根	座	一五〇〇	二ケ年	ナシ	入	レ	九六〇	一ケ年	同 一回四十一錢五厘宛八回
潮	柄	五〇〇	一ケ年	修繕費 一回五錢宛八回	寄	セ	四〇〇	一ケ年	同 一回五錢宛一回
濱	引	四〇〇	一ケ年	同 一回六錢宛一回	も	んだ	三五〇	四ケ月	同 一回八錢宛四回分
引	板	四〇〇	一ケ年	ナシ	荷	桶	一三〇〇	二ケ年	同 一回五錢宛十六回分
沼井堀鍬		七〇〇	四ケ月	修繕費 一回三錢五厘宛四回	鎌		一八〇	一ケ年	ナシ

九 鹹水貯藏装置ノ構造、大小、形狀及面積

ニ掘リ夫レヨリ内側ニ各邊一定ノ堤ヲ築キ出シ其レヨリ尙ホ深サ一尺ヲ垂レ堀リタル壺ナリ面積ハ上面八十四坪深サ五尺ノ所五十二坪最底五十坪

十 鹽田地盤ノ構造及性質

地盤ノ下層ハ當濱築キ建ノ土質ニシテ其上ニ厚サ五寸平均ノ肥土ヲ入レ打堅メタル上層ニシテ尙ホ其上ニ撒砂ヲ撒キ布キタルモノナリ而シテ當濱ハ元ト遠淺ノ海濱ナリシヲ明治初年附近ノ土砂ヲ以テ埋メタル

モノナルヲ以テ下層即チ元地盤ハ土砂質ニシテ其上ニ打堅メタル肥土ハ粘土質七分土砂質二分ノ天然土ヲ以テ築キタルモノナリ其上ニ撒布シタル撒砂ハ土砂質四分粘土質六分ノ即チ天然混合質ナリ

十一 撒砂ノ種類、性質

當濱ハ何レモ撒砂及鹹砂ノ同種同物ニシテ異種類ナシ即チ鹽田地盤面ニ撒布シタルモノヲ撒砂ト云ヒ是ニ汐水ヲ撒布シ鹽分ヲ吸收セシメ沼井内ニ入ル、裝作ヲ施シタルモノヲ鹹砂ト云フ而シテ當濱ニ使用ノ撒砂ハ吉敷郡秋穂村大字大海海底ニ産出スルモノニシテ年々十二月一時購買移入スルモノニシテ當濱近海ニ類似ノ産出アレトモ其質粘土性ノ黒土ニシテ鹽分吸收鈍キ爲メ右品ヲ移入使用スルモノナリ

右大海ヨリ移入スル撒砂ハ其質粘土性ノ赤土ヲ含ミ居ルヲ以テ鹽分ヲ吸收スル量多キヲ以テ費用ノ支出ヲ厭ハス購入スルモノナリ

十二 撒砂撒布量及替砂ノ數

一坪内ニ撒砂平均一斗二升撒布シ此重量七貫二百目而シテ春秋二期ハ天候ノ爲メ鹹砂ノ乾燥充分ナラサルヲ以テ一坪内ニ一斗宛撒布スレトモ夏季ニ於テハ陽熱烈シキ爲メ其厚サヲ増スモ充分乾燥スルヲ以テ一坪一斗五升宛撒布ナシツ、アリ次ニ撒砂全部ヲ三分シ一部ハ沼井堤ノ肩ニ盛り立テ一部ハ鹽田地面ニ撒布シ一部ハ沼井内ニ入レテ鹹水ヲ濾過セシメツ、アルヲ以テ以上三替リ分ノ撒砂量アリ

十三 撒砂乾燥ノ時間

夏	季	自午前五時三十分 至午後零時三十分	七時間	春秋	季	自午前七時 至午後二時	七時間
---	---	----------------------	-----	----	---	----------------	-----

右時間ノ比較夏季ハ春秋ニ比シテ長時間ヲ要スル如キモ夏季ハ撒砂ノ撒布量其多キニ起因ス

十四 撒砂(鹹砂)浸出装置(沼井又ハ臺等)ニ注入スル海水量及鹹水又ハもんだれ採收量

(イ)海	水	量	一臺ニ附	鹹水採收用潮水三荷(九斗)外ニもんだれ用ニ三荷ヲ注入ス(九斗)
------	---	---	------	---------------------------------

同	もんだれ採收用四荷(一石二斗)
---	-----------------

(ロ)鹹水採收量	同	三荷(即九斗)
----------	---	---------

(ハ)もんだれ採収量 同 三荷(即九斗)

十五 海水、鹹水、もんだれノ性質

海水 比重 一、一〇〇 温度 二十七度

鹹水 同 一、一一八 同 二十八度

十六 海水引入、排出(水閘)、海水汲揚装置及汲揚方法

當濱ハ入濱ナルヲ以テ最近堤防ニ閘樋ヲ作リ(是ヲ大閘ト云

フ)満潮ノ際閘ヲ開キテ潮水ヲ引入レ潮水貯留池ニ引入レ置キ地盤操作上潮水ヲ地盤ニ引入ノ必要アル時同貯留池ト地盤トノ境域ニアル閘(是ヲ中閘ト云フ)ヲ開キ地盤ニ引入ル、装置ナリ而シテ地盤内ニアル潮水不用ニナリタル時ハ干潮ノ際各閘ヲ引開キ排出スルモノナリ故ニ入レ濱ナルヲ以テ海水汲揚装置等ナシ

十七 海水貯留池ノ有無、大小、深淺及面積

(イ)大 小 一個ニシテ別紙圖面參照

(ロ)深 淺 深サ中央最深キ處四尺淺キ所二尺平均三尺

(ハ)面 積 六畝五步

十八 鹽田一戸前又ハ一定反別ニ就キテ一ケ年平均鹹水採収量及月別鹹水採收歩合

一ケ年採鹹量 五千四十石 比重十六度

春 四月 一 分 五月 一 分 比重 十五度

夏 六月 一分五厘 七月 一分五厘 八月 一分五厘 八月 一分五厘 十七度

秋 十月 一分一厘 十一月九厘 十五度

十九 鹽田一戸前又ハ一定反別ニ就キテ採鹹ニ要スル人夫ノ種類、名稱、員數、賃銀

名	稱	員	數	賃	銀
土寄七(女日雇)		一日三人(採鹹日數百日三百人)		一日一人十錢	一ヶ月(採鹹日數)三十圓
沼井踏(女日雇)		一日一人(同上)	百人	一日一人十一錢一ヶ月(同上)	十二圓
濱子		七人一ヶ月給金	八圓五十錢二人、八圓二人、七圓七十錢一人、七圓四十錢一人、六圓五十錢一人	就業中八ヶ月計四百三十六圓八十錢	
土	拾	以上濱子ヲシテナサシムルニヨリ賃金ヲ要セス			
水	取	同上			

以上總賃金四百七十七圓八十錢

二十 鹹水採收時季及採鹹量ト風位トノ關係 鹹水採收時季ハ毎年舊曆二月中旬ヨリ九月末迄トス

當濱ハ西北ニ四王司山脈ヲ負フヲ以テ地風凡チ西北風ノ時ハ地面乾燥スルコト他風ヨリ好果ナリ當所ハ夏秋ハ右西北風多ク吹ケトモ春季ハ東風及東南風多キ爲メ採鹹ニ不利ナリ

右夏秋中、就中舊六七月ハ日々西北風多キヲ以テ比較的採鹹多量ヲ得

二十一 一年間ノ採鹹平均日數 持濱 百日 準備濱(仕入濱) 百日

二十二 一年間ノ平均鹹水採收量

上 田 五千六百石 中 田 五千四十石 下 田 四千五百石

二十三 準備濱及持濱其他採鹹ニ關スル操作順序及方法

事業ノ開始鹽田ノ雨後ニ對スル準備操作 事業開始又ハ雨後ニハ地面堅硬ナレハ先ツ金子ヲ以テ地面ヲ縱横ニ鍬なばヘニ引廻ハシ地面ノ土ヲ掘リ起シ根座木ヲ以テ縱横二回引廻ハシ夫レヨリ濱引ニテ縱横ニ鍬なばヘニ引廻ハシ操作ノ準備トス

操作ノ順序方法ハ前項五項ニ於テ承述セシ如ク前條準備ヲナシタル地面ヲ更ニ濱引ニテ縱横一鍬なばヘニ各一回宛引廻ハ

シ潮水ヲ溝深ニ引入レテ地面ニ散布シ之ヲ乾燥セシメタル後又濱引ニテ縱横一畝なばへ各一回宛引廻ハシ引板ヲ以テ之ヲ引ナラシ以テ其日ヲ了ル之ヲ仕入濱ト云フ
持濱前五項ニ詳述セリ

二十四 鹹水採收ニ關スル其他ノ事項 右該當記事ナシ

乙 鹹水煎熬

一 釜屋ノ構造、大小、廣狹及面積 鹽田面ヨリ少シク高キ場所ニ土壁ヲ有スル藁葺ノ建物ヲ設ケ屋根ノ左右ニハ蒸發氣ヲ散出セシムル爲メ常ニ開閉スヘキ設備アリ普通前行與行共八間位ナレトモ掛出シノ如何ニヨリ大小一定セス只タ釜ノ四方ニアル柱(四本柱ト云フ)ノ距離ハ各五間ニ一定セルカ如シ(圖面參照)

二 釜及竈ノ種類、構造、大小、製造原料及釜ノ深淺 竈ハ傾斜土架式ニシテ釜ハ石釜ヲ大概所有スレトモ中ニ二三ノ鐵釜ヲ有スルモノアリ此ノ鐵釜ノ内ニ又鑄鐵釜及銑鐵釜アリ普通釜ハ縱八尺横一丈二尺深サ四寸トス
溫メ釜ハ鑄鐵製ニシテ大小二個ヲ有シ大ハ二石入小ハ一石八斗入トス

三 石釜及竈築造方法及築造後使用ニ至ル迄ノ操作 竈及溫メ釜等ノ底ハ地面ヨリ五尺餘ノ深サニ掘リ水分ノ浸入セサル様全部漆喰叩トナシ之ヲ當業者ハ下舟(ヒタフネ)ト稱フ此ノ上ニ竈及溫メ釜ヲ築造ス竈ヲ築クヲ當業者之レヲゴヘヲ作ルト云フ竈ハ赤粘土而已ニテ堅ク打タ、キテ之レヲ作ルモノトス

竈ノ架上ニ大束十貫及石炭二百斤ヲ乗セ置キ而シテ竈ノ上ニ根座ヲ二本横タヘ殊ニ水平ヲ保タシメ此ノ上ニ釜板ヲ並ヘ各板ノ兩端ニハ煉瓦ヲ以テ板ノ動カサル様支ヘヲナシ而シテ此ノ上ニ方五寸厚サ一寸ノ花崗石ヲ並ヘ石ト石トノ間隙ハ指ノ稍々挿入シ難キヲ程度トシ其間ニハ強熱ニ堪ヘ得ヘキ赤粘土ヘ鹽ヲ混和シ能ク叩キ交セ製シタルモノヲ詰メ込ミ斯ク終リタル後周圍ニハ土而已ヲ付ケ並置セル釜石ヨリ一寸五分ヲ隔リタル所ヘ縁金ヲ置キ而シテ石ト石トノ間ニ鈞金ヲ植ヘ(其數普通三十五本)之ヲ終レハ水二斗ニ石灰三貫ヲ混シ能ク攪拌シタル濃厚液ヲ小杓子ニテ石ト石トノ間即チ土ノ部分ノミ

へ注下シ釜縁ヲ造クル此際ノ土ノ調へ方ハ赤粘土ノ粉碎セシモノ五斗へ石灰十八貫及藁ノ小束二把ヲ長サ二寸五分ニ切りタルモノヲ(スサ)混シタル上ニテ縁ノ底部ハ厚サ三寸上部ニ至ルニ從ヒ漸次薄クシ高サ五寸ノ縁ヲ造リテ尙之ヲ終レハ焚木七十貫ヲ釜上ニ積ミ其上ニ潤シタル莖ヲ一面ニ覆ヒ而シテ焚木ニ點火スレハ二時間半餘ニシテ殆ント燃へ終ルニ依リ此ノ時ハ圍圍ニ火ヲ搔キ集メ更ニ縁ヲ能ク燒熱シ中央ノ釣鈎ヲ輕ク叩クトキハ金ノ音ヲ發ス然ルトキハ最早釜ノ燒熱充分ナルコトヲ認メ得ルモノナルニ付立石はり木ヲ横タへ其上ニころがし二本尙其上ニ釣木七本ヲ並へ各釣鈎へ電信線ノ太サ位ノ金ヲ以テ釣木ニ釣リ而シテ一方ヨリ釜板ヲ抜キトリ直チニ煉瓦ヲ挿入シ粘土ヲ塗り付ケ又タ他ノ板ヲ拔取り煉瓦ヲ挿入シ粘土ヲ以テ塗り付ケルコト前法ノ如シ而シテ根座ヲ拔取り周圍ヲ能ク塗り終リハ前ニ裝置セシ竈内ノ石炭及ヒ大束へ點火シ(是レヨリ絶へス竈ハ焚キ續クナリ)四時間許リ經過セル時前ニ注キタル如ク濃厚ノ石灰汁ヲ注クコト二回ニシテ後鹽二斗ヲ釜ノ全部ニ振り掛ケすりヲ潤シテ能クスリ込メ直チニ鹹水ヲ釜ニ汲ミ入レ煎熬ス

四 鹹水ヲ釜屋ニ輸送スル裝置、構造及方法 臺壺ヨリ釜屋へ鹹水ヲ輸送スルニハ先ツ九寸乃至一尺廻リノ竹ヲ土中ニ埋没シ之レヨリ鹹水ヲ釜屋内瓢箪ニ引入ス上部ノ鹹水及下部ノ鹹水ヲ適宜ニ混合引入スルタメニ臺壺内ニ直立セル竹ノ一戸ニ小孔七八個ヲ穿チ之レニ小栓ヲ挿入セリ又瓢箪内ニアル竹筒ニモ同シ小孔ヲ穿テリ

五 煎熬用器具ノ名稱、種類、員數、形狀、大小、構造及使用方法

名稱	員數	使用方
くべ十能	一	石炭ヲ竈ニ投入スルノ際之ヲ使用ス
割十能	一	大塊ノ石炭ヲ竈内ニテ燃ユル際之ヲ割ルニ用ユ
火ばし	一	竈内ニテ石炭ノ燃ル際攪拌スルニ用ユ
たきひき	一	竈内ニ於テ燃焼シツツアル石炭ノ位置ヲ操換へ火力ヲ均一ニスルニ用ユ
温めこさぎ	一	温め釜裏面ニ煤煙ノ附着セシモノヲ掃除スルニ用ユ
てこつむ	一	竈内石炭ノ燃具合ヲ見ル際竈蓋ヲ除去スルトキニ用ユ

六 釜其他煎熬用器具ノ新調費、修繕費及保存期限

穀	一	石炭ノ燃穀ヲ竈ヨリ取出ス時ニ之ヲ用ユ
出	二	釜ノ鹽掻出口ヨリ搔出シタル鹽ヲ居出シ場ニ移ス際及倉庫内鹽建場ニ於テ切り返シチナス等ニ用ユ
は		釜内ノ鹹水沸騰ヲ始メ上部ニ泡及汚物ノ浮ヒタルモノチ一隅ニ押シ寄セ
ね		或ハ釜ヲ釜ヨリ取り上ケル際等ニ押シ寄セ又ハ引キ寄セノ作業チナスニ
が		夫々ノ柄振リヲ使用ス
い		温め釜ヨリ煎熬釜鹹水ヲ注加スル際之ヲ用ユ
し		

名	稱	員數	新調費	保存期限	名	稱	員數	新調費	保存期限
石	釜	二本	110,000 ^円	四ケ年	黒	鹽	二荷半	11,000 ^円	
寢	木	二本	1,700	四ケ年	焚	木	七十貫	2,000	
縁	金	各四本	3,500	三ケ年	蕙		十二枚	6,000	
釜	板	一釜分	4,000	一ケ年	く	べ	一本	7,000	六ケ月
釣	鈎	三十五本	3,500	二ケ年	わ	り	同	1,600	二ケ年
針	金	同	1,500	六ケ月	た	き	同	1,600	二ケ年
こ	し	二本	1,400	一ケ年	ひ	ば	二	4,500	二ケ年
ろ	り	同	4,000	同	て	こ	同	4,000	二ケ年
は	り	同	700	同	か	ら	一	6,000	二ケ年
つ	木	七本	1,400	同	は	ね	同	5,500	六ケ月
立	石	四本	4,500	同	ね	が	同	1,000	二ケ年
釜	石	三百個	4,500	同	ぶ	り	同	9,000	一ケ年
赤	土	二十荷	600	同	柄	杓	三	9,000	一ケ年
石	灰	八俵	400	同			本		

七 燃料ノ種類、名稱、産地、價格及品質

發熱ノ割合ハ筑前炭ヲ十トスル時ハ本山炭ハ四ノ發熱力ヲ有ス

本縣厚狹郡本山炭二十三圓筑前炭四十二圓但シ一萬斤ノ代價トス

(十六) 三田尻鹽務局長府出張所ノ部 第三章 製鹽方法 乙 鹹水煎熬

八 一釜ニ使用スル鹹水容量及製鹽等級別數量、一釜ニ使用スル燃料ノ數量

(一)煎熬ニ使用スル鹹水ノ容量ハ二石八斗ニシテ(比重溫度ハ鹹水採取ノ時期ニ依リテ差アレトモ九月二十二日計量セシモノハ比重一、一一八溫度二十八度)五等鹽ニシテ一石乃至一石二斗ノ鹽ヲ得一石(五等鹽)二十七貫

(二)煎熬ニ使用スル燃料ノ數量ハ本山炭三十貫代四十錢筑前炭六貫四百目代十六錢八厘計六十二錢八厘若シ四等鹽以上ノ品ヲ煎熬セントスルトキハ火力ヲ弱クシ徐々ニ燃燒セシムルカタメ石炭ハ一割餘ヲ多ク消費ス

九 煎熬ニ使用スル各種石炭混合ノ割合 筑前炭二分 元山炭八分ノ割合トス

十 鹹水ヲ釜ニ注加スルニ先チ汚物ヲ除去スルカ爲メ之ヲ濾過スル裝置ノ有無、構造 右該當記事ナシ

十一 鹽田一戸前又ハ一定反別ヨリ得タル鹹水煎熬ニ要スル人夫ノ種類、名稱、員數及賃銀 頭領及ヒ隱居ノ二名ニシテ頭領トハ晝間而已煎熬ニ從事シ且ツ煎熬ニ關スル萬般ノ事ヲ操縦スルノ役ニシテ隱居ハ夜間ノ煎熬ニ從事スルノ役ナリ

兩名共賄付ニシテ一ヶ月頭領七圓隱居六圓五十錢ヲ一ヶ年中八ヶ月間支給スル而已尤モ舊六七ノ兩月ハ炎暑ノ候ナルカタメ慰勞トシテ兩者へ月ニ一圓五十錢増給スルノ慣例ナリトス

十二 一晝夜ニ於ケル煎熬ヲ終ル釜數及鹹水量並ニ其收鹽量 五等鹽煎熬ハ通例九釜乃至十釜ニシテ其鹹水量ハ二十

八石、收鹽量十石乃至十二石(一石二十七貫)四等鹽以上ヲ煎熬セントスルトキハ八釜以下ニシテ四等鹽ナラハ八石(一石二

十五貫)三等鹽ナラハ七石(一石二十三貫)餘ノ收鹽量トス

十三 鹽田一戸前又ハ一定反別ヨリ得タル製鹽總量 平年平均一ヶ年(五等鹽千二百石四等鹽七百二十石)重量前項ノ如シ

十四 居出シ場ノ構造、大小、廣狹 居出シ場ハ大概釜屋内ノ一隅ニ設置シ三方ノ側壁ハ腰板ヲ打付ケ天井ハ葎ヲ以テ

覆ヒ床ハ稍々傾斜ヲ有スル板張(板張ノ間ハ互ニ多少ノ間隙アリ)トナシ中央ニ徑一尺五寸深サ二尺五寸餘ノ桶ヲ埋メ之レニ苦汁ヲ流下セシムルノ裝置ニセリ板張ハ奥行四尺中六尺トス

十五 煎熬ニ關スル操作及其方法

瓢箪ヨリはねつるベニテ鹹水ヲ大小二個ノ温メ釜ニ汲入レ之ヲ温メ而シテ其温メタル二個分皆悉柄杓ニテ煎熬釜ニ汲ミ込ミ煎熬ス煎熬中泡汚物及煤煙ノ浮遊セルモノハ時々柄振ニテ一隅ニ輕ク押シ寄セ集マリタルモノヲしわくニテスクヒ取ルコト(煎熬中二回乃至三回トス釜中鹹水少シク結晶セントスルトキ苦汁ヲ四斗六七升乃至五斗ヲ注加ス)

十六 從來使用シタル釜及竈ノ變遷並ニ使用燃料ノ變遷

十七 煎熬ニ關スル其他ノ事項

右二項該當記事ナシ

十八 一年間ノ平均煎熬日數

一ヶ年平均百八十日乃至二百日トス

十九 一年間ノ平均收鹽量

五等鹽ニシテ二千石 四等鹽ニシテ千八百石 三等鹽ニシテ千六百石

五等鹽 一石二十七貫 四等鹽 一石二十五貫 三等鹽 一石二十三貫

二十 一年間ノ採鹹及煎熬總費用 一町五反濱ニ對シ上田二千六百圓 中田二千四百圓 下田二千百圓

二十一 從來平年ニ於ケル鹽田一戸前又ハ一定反別ノ收支計算表

支出ノ部

種目	金額	摘	要	種目	金額	摘	要
諸税金	110,000 ^円			焚木	15,000	千五百貫	
石炭	75,000	本元炭四千振り一振十五錢 筑前炭六百振り一振二十五錢		赤土	5,000	一坪	
石灰	42,000	竈七回改造一回塗灰六十錢		入換土	40,000	十坪	
釜石	26,000	二千百個一個一錢二厘		温メ釜	12,000	温め釜一個新調竝ニ補充	

種目	金額	摘	要
金物	一五,〇〇〇 ^円	金物道具類新調及修繕費	
鍬	三〇,〇〇〇	鍬類新調及修繕	
桶	一〇,〇〇〇	桶類同上	
繩	二〇,〇〇〇	鹽八百石ニ對スル五斗入一六入斗入其他大小繩共	
沼井菰	八,一〇〇	沼井臺九十個一個二枚宛一枚代四錢五厘	
當子藁	二,〇〇〇	同上ニケ年二回入用藁二百把一把一錢	
沼井蕘	五,〇〇〇	釜構造用臺壺用蕘二百五十枚一枚二錢	
子竹	四,五〇〇	濱引鍬用子竹百五十九丸一丸三錢	
石油	六,〇〇〇	釜小屋燈石油三斗一升二十錢	
樋普請	一〇,〇〇〇	樋普請木代大工作料共	
屋根葺	三〇,〇〇〇	釜屋居小屋屋根葺換竹代共	
修繕費	二五,〇〇〇	建物沼井臺其他諸修繕費	
石穀拾費	一〇,〇〇〇	石穀積取拾費	
種目	金額 <td>摘</td> <td>要</td>	摘	要
雜費	一〇〇,〇〇〇 ^円	費用外雜費	
會所費	一五,〇〇〇	會所費組合費	
運搬費	一〇六,〇〇〇	運搬及積入賃及荷造賃共	
利足	五〇,〇〇〇	營本資本金五百圓一步利子	
女日雇	三〇,〇〇〇	寄セ沼井蹈女三人宛三百人役一人十錢	
濱子飯米	三三,〇五〇	八ヶ月半七人延七百八十五人米一升十三錢	
濱子給金	四六,五〇〇	濱子釜焚定雇七人八ヶ月半月七圓宛	
堤防	三〇,〇〇〇	修繕費	
酒肴料	二〇,〇〇〇	節旬祝日ノ酒肴料	
賞與金	二二,〇〇〇	年末賞與	
加調金	三五,〇〇〇		
總計	二,五〇三,〇〇〇		

收入ノ部

種目	金額	摘	要
鹽二十三萬七千五百斤	三,二七三,七五〇 ^円	五等鹽一ヶ年二千石煎熬百斤ニ付九十七錢	

二十三 其他採鹹煎熬ノ方法、鹽田、釜、竈其他ニ關シテ進歩シタル點、改良ヲ要スヘキ點及改良案 當地方ニ於テ採鹹ノ方法鹽田、釜竈其他ニ關シテ進歩シタル點ヲ認メサルモ將來第一着ニ改良ヲ要スヘキハ石釜ヲ廢シ鑄鐵釜ニ改造スルヲ急務トス其利益ノ點ヲ比較スル時ハ左ノ如シ

鐵	釜
据付ヲナス迄ノ總費用三百圓 鹽質ヲ善クス 初釜ニ黑鹽ヲ出サス 苦汁ヲ注加スル時期早ケレハ鹽ノ結晶細表ニナテテハ宜シ 任意ノ時期ニ煎熬ヲ中止スルコトヲ得	一ケ年七回改築スルトキハ八十四圓 一回十二圓 鹽質惡シ 初釜 黑鹽ヲ多量ニ出ス 餘リ早ク苦汁ヲ注加スルトキハ釜底ニコーラヲ附着スルカタメ煮沸ヲ遅ク シ石炭ヲ多費スルコトヲ恐レ不得上注加時期ヲ遅クス 煎熬ヲ中止スレハ更ニ改築ヲ要ス

第四章 製鹽及副産物ノ種類、用途

- 一 眞鹽又ハ差鹽ノ區別 各別ノ數量 當地方ハ差鹽而已ニシテ平均一ケ年收鹽量ハ第三項乙十九ニ記セル如シ鹹水ト混和スル苦汁ノ割合ハ鹹水二石八斗ニ對シ五斗ヲ注加ス
- 二 鹽ノ理化學的性質
- 三 鹽ノ主要用途
右二項該當記事ナシ
- 四 鹽(各等級)ノ容量ニ對スル重量
三等鹽一升ノ重量 二百三十匁 四等鹽一升ノ重量 二百五十匁 五等鹽一升ノ重量 二百七十匁
- 五 苦汁ノ用途
- 六 苦汁ノ利用方法
- 七 苦汁ノ生産量
- 八 苦汁ノ貯藏裝置及貯藏方法
- 九 苦汁一石ノ賣買價格

(十六) 三田尻鹽務局長府出張所ノ部

第四章 製鹽及副産物ノ種類、用途

十 苦汁ノ運搬方法及販路

十一 苦汁ヨリ生スル副産物製造裝置及製造方法

十二 副産物ノ種類、名稱及用途

十三 副産物ノ價格及販路

右九項該當記事ナシ

十四 鼠鹽、かいさき鹽、泥鹽、居出シ鹽、釜立鹽等ノ粗惡鹽產出額及ヒ其使用方法

鼠鹽、釜立鹽等ハ一切販賣セス種

鹽トシテ釜ノ築造ニ使用シかいさき、泥鹽、居出鹽ノ三種ハ一ケ年二百貫ヲ產出ス此ノ代價十貫ニ付三十錢ニシテ近在ニ肥料用トシテ販賣ス

第五章 鹽ノ包裝及秤量

一 從來ニ於ケル一包裝ノ數量 一包裝ノ數量ハ風袋共一升當量目二百七十目相當ニ鹽ヲ入レタルモノニシテ即五斗入ニハ其風袋共拾三貫五百目ナリ即容量及重量ハ左ノ如シ

五斗 俵 容量 四斗 重量(風袋共) 十三貫五百目

三斗 俵 同 二斗八升 同 八貫百目

一斗三升 俵 同 一斗八合 同 四貫五百十匁

一斗 俵 同 八升 同 二貫七百目

八升 俵 同 六升四合 同 二貫百六十匁

二 包裝ノ形狀、種類 包裝ノ種類ハ普通五種ニシテ其他二三ノ種類アレトモ需用先僅少且ツ注文者ノ需メニヨリ一

定セサレハ茲ニ掲記セス而シテ包裝ハ何レモ藁ヲ以テ編製シタル菰ニテ種類ニヨリ横繩縱繩アリ

三 包裝ノ編製方法及其原料 原料ハ藁ノ宜シキヲ中真ヲ取り同シ藁ヲ以テ編ミテ(四ケ處編其間隔二寸五分)菰トナ

シ双端ヲ連結シ底ヲ塞キ以テ俵トシタルモノナリ而シテ之ヲ包裝スルニハ胴繩縱繩ヲ施シタルモノトス

四 各種包裝ノ價格

八升入	菰代	七厘五毛	同代	三厘	計	一錢五毛
斗入	同	同	同	四厘	同	一錢一厘五毛
一斗三升入	同	八厘五毛	同	五厘	同	一錢三厘五毛
三斗入	同	一錢五厘	同	八厘	同	二錢三厘
五斗入	同	二錢五厘	同	一錢二厘	同	三錢七厘
五 包裝ハ一重ナルカ又ハ二重ナルカ又ハ其形狀、大小等販路先ニ依リ差違ノ有無						

八升入ハ 九州筑前筑後肥前行

一斗入ハ 出雲石見等行

一斗三升入ハ 因幡但馬及伯洲行

三斗入ハ 地廻リ行(即チ本郡内及厚狹郡美彌郡)

五斗入ハ 越後以北ノ諸國及北海道行

六 包裝ニ附記スル商標記號ノ種類、形狀、大小 右該當記事ナシ

七 秤量器ノ種類、形狀、大小及材料 秤量器ノ種類ハ桶狀ヲナシ材料ハ杉ヲ用ユ(圖面參照)

第六章 貯藏方法

一 倉庫ノ構造、大小及壁床ノ構造 倉庫構造ハ別紙圖面ノ通り横一間半高二間半(棟迄)奥行六間ノ藁屋根造ニシテ

入口ハ葦ノ開戸トナシ周圍ハ壁トナシ入口ヨリ奥行二間ノ所ニテ引戸ヲ以テ仕切り内部ハ板敷トナシ撒鹽貯藏場トシ外部

ハ鹽包裝場トナシ時ニハ包裝鹽ヲ貯藏スルコトアリ

二 貯藏方法及貯鹽期間ニ於ケル俵ノ損傷程度及狀態

貯藏方法ハ居出場ヨリ鹽ヲ移シ入ル、トキ奥ノ一隅ヨリ積ミ

込ミ撒鹽トナシ置キ注文ニ應シ包裝スルモノナリ依テ包裝鹽ヲ貯藏スルコトナシ稀ニハ右注文ニヨリテ包裝シタル鹽ノ買受人ノ都合ニヨリ二三日前記包裝場ニ積ミ置クコトアリ撒鹽貯藏一週間以上ナルトキハ一割五歩ノ減量アリ

三 俵裝ノ大小ニ依ル積載ノ高サ若クハ俵數及積載方法

包裝鹽貯藏ハ前記ノ通り稀ニシテ偶々アルトキハ五斗俵ハ

四 俵立位其他ハ五俵乃至六俵ニ至ル但シ包裝數ノ多少ニヨリ倉庫内ノ廣狹ナルニ應シ積方高低アリ

四 一ケ年間ニ於ケル眞鹽差鹽ノ各貯藏步減及各滴出苦汁量

當濱ハ差鹽ノミヲ製スルヲ以テ一ケ年一割五歩ノ步減

アリ苦汁ハ板敷シタル板ノ間隙ヨリ地下ニ浸入スルヲ以テ其量不明

五 苦汁ノ採收方法及貯藏裝置

六 古積鹽ノ製造方法、製造期間ニ於ケル鹽步減ノ割合

七 古積鹽製造用家屋ノ大小、構造及床四壁ノ構造

右三項該當記事ナシ

第七章 鹽ノ販賣

一 從來ニ於ケル鹽販賣ノ方法

當濱ニハ從來ヨリ右小作人カ鹽賣捌處ナルモノヲ濱ノ一部ニ設ケテ鹽販賣ニ係ル一

切ノ事ヲ取扱ヒ其經費トシテ小作人ヨリ毎回賣上金高ノ三分ヲ微收ス依テ下作人等ハ直接販賣ニ關與セス又鹽買受人ノ主タルモノハ馬關物品問屋北國其他ノ客船ノ入船アルトキハ賣捌人ニ之レカ手引ヲナシ買入ヲナサシメ又ハ依托ニヨリ買受ヲナシ現金ヲ支拂フヲ例トスレトモ時ニハ數十日支拂ヲ延期スルコトアリ此場合ニ於テハ右物品問屋カ責任者トナリテ其期日ニ支拂ノ義務ヲ盡スノ契約ヲナスナリ

右物品問屋ノ客船ノ手引ヲナシ又ハ依托買入ヲナシタル時ハ客船ヨリ其口錢トシテ鹽買受金高ノ三分ヲ支拂フ通例トス百五十石以下ノ小船ハ直接當濱ニ來リ鹽賣捌處ニ就テ買受ケ出雲、石見又ハ九州筑後地方ニ持行販賣ス是等ハ當濱ニ於テ

鹽買受ヲナストキハ現金ニテ支拂フナリ

其他地廻ハ地方鹽商人當所ニ來リ買受ヲナシ即時代金ヲ支拂ヒ馬車又ハ小船ニテ引取ルヲ例トス

二 鹽ヲ賣買スル船頭ノ習慣及船頭カ鹽ヲ賣買運搬スル方法、船員ノ給料、船頭ト鹽商トノ關係 鹽ヲ賣買スル船頭ノ

習慣ハ大抵北國船ハ木材又ハ肥料其他ノモノヲ買入レ之ヲ積載シテ下關ニ持チ來リ販賣シ其歸リ荷トシテ其代金ヲ以テ鹽ヲ買ヒ歸國販賣スルヲ常例トス船員ノ給料ハ右北國船ニアリテハ八百石積位ニシテ船員六人乘(合ノ子)賄付一人前月五圓位ニシテ小船ニハ船頭ノ外船員ナシ

右北國船頭ハ鹽買主ニシテ歸國ノ上夫レ夫レ販賣ヲナスヲ以テ當地ニ於テハ右下關問屋以外ノ鹽商人ニ關係ナシ右問屋トノ關係ハ來航ノ際積來リタル積載品ノ販賣ヲ依托シ其代金ヲ得テ右鹽買入レヲ更ニ依托シ之ニ口錢三分ヲ與フルヲ常例トナセトモ若シ當初ノ積荷馬關ニ於テ急ニ販賣出來サル時ハ之カ販賣ヲ右問屋ニ依托シ後日問屋ニ於テ賣却シタルトキ其代金ヲ以テ鹽ノ代金ヲ問屋ヨリ支拂ヲナスノ外他ニ關係ナシ

三 從來ニ於ケル鹽ノ販路地

容 量(注文)	販 路 地	主 ナ ル 用 途
八 升 入	九州筑前筑後肥前行	醬油釀造用
一 斗 入	石見、出雲行	食用
一 斗 三 升 入	伯州因州但州行	同
三 斗 入	地廻豊浦厚狹美禰三郡	同
五 斗 入	越後及北海道	食用及魚類鹽藏用

右ハ鹽買主ニ於テ豫メ四五日前ニ注文ヲナスヲ以テ濱ニ於テ直ニ包裝ヲナシ賣渡シノ準備ヲナセトモ時ニハ既製鹽注文ニ應スルノ量ナキ時アルヲ以テ買受人ニ於テ一ヶ月前ヨリ豫メ手附金一割ヲ送付シ注文ナス事モアリ而シテ代金ハ次項石當

代價ニヨリ算定ス

四 鹽商カ鹽業者ニ資金ヲ融通スルノ有無及其方法、契約並ニ償却ノ方法 當濱小作人ニ於テ兩人共相當ノ資産ヲ有

シ居ルヲ以テ鹽商ヨリ資金ノ融通ヲ受クルコトナシ

五 從來ニ於ケル鹽ノ濱相場及小賣價格

三十五年	一石	一圓四十錢(平均)	一升賣ハ	二錢
三十六年	同	一圓三十錢(同)	同	一錢九厘
三十七年	同	一圓五十錢(同)	同	二錢一厘

右ハ秋夏ノ季節ニ於テ多少鹽價ニ高低アレトモ大ナル差ナク而シテ前記ハ平均ヲ取りタルモノナリ又一升賣ハ當濱ニ於テ是迄ナセシコトナシ五升賣以上ナリ(當濱地賣五升入ノ桶ヲ用ユルノ慣例ナリ)前記一升當ハ其相場ヨリ算出ス

六 鹽價ノ定メ方 買人ト賣人トノ協定ニ成ルモノニシテ其基礎ハ多ク天候ノ如何鹽產出ノ多寡原料(重_二石炭)ノ高低及需用先ノ増減等ニ取レリ

七 販賣ノ季節 舊六七八月ハ航運ニ便ナル季節ナルヲ以テ北國筋ノ大船來ルコト多ク隨テ積載高モ多クシテ春季以來賣リ殘リノ鹽ヲ併セテ販賣スルモ尙ホ不足ヲ告クル景況ヲ呈スレトモ舊九、十、十一月ニ至レハ北國船モ風波ノ爲メ來航スルコト尠ケレハ賣高モ亦尠シ尤モ小船ハ絶ヘス來リテ買入レ九州其他ノ地方ニ販賣スルヲ以テ同季節ノ產出鹽ハ同十二月迄ニハ大抵賣盡ス有様ナリ

八 鹽俵拔キ檢査ノ方法 鹽買受ニ來リタル時ハ總俵數ノ内ヨリ買受人ニ於テ三俵ヲ拔キ出シ其量目ヲ檢定シ其一俵ノ量一斗當二貫七百目(但シ風袋共)ノ割合アルヤ否ヤヲ調へ同量目以上アリタル時ハ過量ハ取捨テトス若シ右量目ニ達セサルモノアルトキハ其不定量目ノ差ヲ合セ三俵ニテ除シ平均一俵ノ不足量ヲ得全俵數ニ乘シ其總量ニ對スル増俵數ヲ授受スルカ又ハ代金中ヨリ其價格ヲ控除シテ支拂フカ買受人ノ望ミニ隨ヒ何レニモ取扱ヲナスノ例ナリ

鹽買受ニ來リタル時ハ總俵數ノ内ヨリ買受人ニ於テ三俵ヲ拔キ出シ其量目ヲ檢定シ其

九 鹽ノ受渡ニ際シ重量容量ノ減少ニ對スル處置

前項ノ通り計算シテ受拂ヲナセル外爾後ノ量減ヲ察シテ量増ヲナ

ス等ノコトナシ

當地方ニ於テハ前ニ掲ケタルカ如ク重量ヲ以テ取引ヲナスカ故ニ何斗俵ノ一俵ハ實量何斗ト一定セルニアラス鹽ノ善惡ニヨリテ實量ニ差異アリ依テ其重量ヲ左ニ掲ク

稱呼俵	重量(風袋共)	風袋量	稱呼俵	重量(風袋共)	風袋量
五斗俵	十三貫五百目	三百二十目	一斗俵	二貫七百目	百二十目
三斗俵	八貫一百目	二百四十目	八升俵	二貫百六十目	百目
一斗三升俵	三貫五百十日	百六十目			

一升ノ重量普通二百七十目トナセ共小賣ノ一升ハ三百二十目ヲ通例トス

十 鹹水賣買ノ有無及其方法、價格ノ定メ方

十一 製鹽ノ原料タル鹹水ニ對スル見越買ノ有無及方法

右二項該當記事ナシ

第八章 鹽運搬方法及運搬費

一 從來ニ於ケル鹽ノ運搬方法及其各種積載數量

當濱ニ來ル百五十石内外ノ小船ハ入川ニ於テ濱ヨリ直積ナシ而シ

テ百五十石ナレハ八升俵千八百俵位積載ス北國船ハ大抵八百石以上ノ船ナルヲ以テ當濱ヨリ一里程沖合ニ投錨シ地方ノ上荷船ニ依リテ積込ヲナスナリ其積載種類數量ハ大抵異種ノ包裝鹽ヲ積ミ込ム事尠クシテ同一ノ包裝ナリ而シテ右八百石位ノ船ナレハ六百石位ノ鹽ヲ積ミ込ミ其上荷トシテ下關ニテ砂糖糖等ヲ買ヒ積ミ合セ歸ルヲ以テ鹽ノミ滿載スルコトナシ又時トシテ濱ニテ上荷船ヲ雇ヒ鹽ヲ下關ニ下シテ本船ニ移ス場合アリ

二 各種運搬方法ニ依レル各運搬先迄ノ鹽一定量又ハ一定容量ノ運賃及出荷地ニ於ケル手數量

當地ニ來ル鹽購入ノ

船ハ何レモ其ノ船頭ナルモノカ直接鹽買受人ナルヲ以テ運賃積ナルモノ從來至ツテ尠シ只地方ノ小商人等百石内外ノ鹽ヲ受取ル時運賃積ヲ爲スコトアリ此ハ當所附近沿岸凡ソ一里乃至二里位迄ハ何レモ百石ニ付三圓位ノ運賃ナリ而レトモ右北國其他ノ諸船ヲシテ假リニ運賃積トナス時ハ左ノ如ク賃金ヲ要スル趣ナレトモ未タ實行シタル例ナシ

北海道及越後地方 鹽百石ニ付 五十圓位

山陰道内伯、因、但三ヶ國 同百石ニ付 三十三圓位

同 出雲石見二ヶ國 同百石ニ付 三十圓位

九洲筑前近海 同百石ニ付 十圓位

九洲筑後 同百石ニ付 二十圓位

九洲肥前 同百石ニ付 二十五圓位

本船迄ノ上荷賃ハ百石ニ付金三圓及問屋ヨリ交渉アリタル分ハ口錢三分即チ百石代金百四十圓ニ對シ四圓二十錢ノ問屋口錢ヲ要シ即チ以上百石ニ付計金七圓廿錢ヲ要ス

保險料 當地ニ來ル船ニ於テ海上保險ニ入ルヘキ資格ヲ有スル船ナシ海上保險ハ五十噸以上積載ヲ有スル船ヲシテ同量以上ニ乗ルヘキ船長證明書ヲ有スル資格ヲ要スル船長乘リ組居ラサレハ之ニ應スル資格ナシ依テ當濱ニハ其資格アル船來リタルコトナシ

着荷地ニ於ケル諸掛費用ハ着荷地ノ荷上便否ノケ處ニ於テ異ナレトモ出雲地方ニ行キ荷上便利ノ地ニ於テ百石ニ付七十錢ヲ要ス

第九章 小作人ト地主トノ關係

一 小作人ト地主トノ關係 當濱地主ハ長府在住子爵毛利元敏ニシテ小作人ハ長府村住白石常鎮王司村住伊秩修平ノ

兩人共同小作ニシテ其小作定約ハ別紙寫ノ通り

約 定 書

一 今般子爵毛利元敏殿ノ御所有ニシテ野村源七阪野良造豐永長吉三名ノ名義ナル本郡豐東前村地内鹽田、千鳥、龜、古ノ三濱ヲ伊秩周平白石常鎮ノ兩人ニテ借り受ケ右兩人ニテ製鹽營業ヲナスニ依リ子爵毛利元敏殿代理家扶莊原好一ヲ甲者トシ伊秩周平白石常鎮兩人ヲ乙者トナシ雙方ノ間ニ左ノ契約ヲナス

第 一 條

乙者ハ明治二十五年一月ヨリ向フ五ケ年間千鳥、龜、古三濱ノ鹽田ヲ甲者ヨリ借り受ケ製鹽營業ヲナスニヨリ其借受料トシテ五ケ年間一ケ年金一千二百八十圓宛毎年十二月限り乙者ヨリ甲者ニ拂渡スヘシ

第 二 條

甲者ハ前條三濱ノ鹽田ニ附屬セル一切ノ地所家屋其他總テノ構造物及千鳥濱内ニ建築セル五軒貸家一棟鹽問屋一軒並ニ製鹽用具ナル鐵製ヌルメ釜二十一個(一個ノ重量二十四貫目)ヲ契約年限中無料ニテ乙者ニ貸シ渡スヘシ

第 三 條

前條ニ掲ケタル家屋其他ノ構造物鹽竈神社製鹽用具等ノ修繕及諸堤防ノ砂留柵入川寄り砂取除等ハ契約年限中乙者ニ於テ之ヲ負擔シ其費用ヲ支辨スヘシ

第 四 條

家屋其ノ他必要ナル構造物ノ改築及ヒ新營ニ關スル費用ハ甲者ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

第 五 條

天災非常ノ變ニ依リ乙者ノ借受タル鹽田及之ニ附屬セル地所家屋構造物等ニ蒙リタル損害及ヒ其復舊工費ハ甲者ニ於テ之ヲ負擔スヘシ但復舊工費ハ損害ノ多少ニ應シ乙者ニ於テ其幾分ヲ分擔スルモノトス

第 六 條

乙者ノ製鹽營業ニヨリ生スル損益ハ毫モ甲者ニ關スル事ナシ然レトモ天災非常ノ變ニ因リ乙者甚タシキ損害ヲ蒙リ而シテ其損害ヲ證明シ得ル時ハ甲者ハ相當ノ割合ニヨリ第一條ニ示シタル借受料金ノ内幾分ノ減額ヲナスコトモアルヘシ

第七條

乙者ニ於テ鹽田及其附屬地並ニ家屋其他ノ構造物ノ模様ヲ變換セントスルトキハ豫メ甲者ノ認諾ヲ受クルコトヲ要ス

第八條

甲者ハ乙者ノ借受タル鹽田及其附屬地内ニ於テ家屋其他ノ構造物ヲ改築新設セントスルトキハ豫メ乙者ノ認諾ヲ受クルコトヲ要ス

第九條

乙者ノ借リ受ケタル鹽田及其附屬地ニ對スル地租縣稅及村稅ハ甲者ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

第十條

甲乙兩者ノ一方ニ於テ此契約ニ違反シ之カタメ他ノ一方ノ者ニ損害ヲ蒙ラシメタルトキハ契約ニ違反シタル一方ノ者ヨリ相當ノ損害賠償ヲナスヘシ

右甲乙兩者ノ合意ニヨリ此契約ヲ締結セシテ證スル爲メ本書二通ヲ製シ各自記名調印シ各一通ヲ所持スルモノ也

明治二十四年十二月二十五日

山口縣豐浦郡長府村第六百六十六番屋敷居住

子爵毛利元敏代理

家 扶 莊 原 好 一 印

同縣同郡豐東前村第三百七十七番屋敷居住

伊 秩 修 平 印

同縣同郡長府村第二百二十二番屋敷居住

白石常鎮印

同縣同郡豐東前村第三百六十六番屋敷居住

保證人 坂野良造印

同縣同郡長府村第三百六十五番屋敷居住

保證人 野村源七印

同縣同郡同村第九百六番屋敷居住

保證人 豊永長吉印

續 約 書

明治二十四年十二月二十五日子爵毛利元敏代理莊原好一(甲者即 實貸人)ト伊秩周平、白石常鎮兩人(乙者即 賃借人)トノ間ニ締結セシ豊浦郡豐東前村地内鹽田千鳥濱、龜濱、古濱ニ關スル賃貸借契約ハ明治二十九年十二月限り滿期トナルヲ以テ爰ニ雙方ノ合意ニ依リ續約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第 一 條

明治二十四年十二月二十五日締結セシ豊浦郡豐東前村地内鹽田千鳥濱龜濱古濱ニ關スル賃貸借契約ハ明治三十年一月ヨリ向フ五ケ年間仍ホ其効ヲ繼續セシメ其第一條中借受料金ヲ一千三百四十圓ニ増額シ更ニ左ノ三條ヲ追加ス

第 二 條

海面堤防(沖一文 宇堤)ノ修繕ハ通常ト天災非常トヲ問ハス其費用年額三百圓マテハ乙者ニ於テ之ヲ負擔スルニ止メ其餘ハ甲者ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

第 三 條

(十六) 三田尻鹽務局長府出張所ノ部 第九章 地主ト小作人トノ關係

乙者ハ善良ナル管理者ノ如ク常ニ塩田堤防家屋其他構造物等ノ保護ニ注意シ暴風激浪等天災非常ノ際ハ特ニ保護ニ盡力スルノ義務ヲ有スルモノトス

第四條

甲者ノ貸附シタル鹽田及其附屬地等貸借物件ノ收益ニ對スル所得稅ハ乙者ニ於テ之ヲ負擔スヘシ
右續約ヲ締結シタル證トシテ各自記名調印スル者ナリ

明治二十九年十月十九日

山口縣豐浦郡長府村第六百六十六番屋敷居住

子爵毛利元敏代理

家 扶 莊 原 好 一 印

同縣同郡豐東前村第三百七十七番屋敷居住

伊 秩 修 平 印

同縣同郡長府村第二百二十二番屋敷居住

白 石 常 鎮 印

同縣同郡豐東前村第三百六十六番屋敷居住

保 證 人 坂 野 良 造 印

同縣同郡長府村第三百六十五番屋敷居住

保 證 人 野 村 源 七 印

同縣同郡同村第九百六番屋敷居住

保 證 人 豐 永 長 七 印

續 約 書

明治二十九年十月十九日貸貸人子爵毛利元敏代理莊原好一ト賃借人伊秩修平白石常鎮兩人トノ間ニ締結セシ豊浦郡王司村
(舊名豊東前村)地内鹽田千鳥濱龜濱古濱ノ貸貸借ニ關スル契約ハ明治三十四年十二月限り満期トナルヲ以テ茲ニ双方ノ合意ニ依リ
續約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一條

明治二十九年十月十九日締結セシ豊浦郡王司村地内鹽田千鳥濱龜濱古濱ノ貸貸借ニ關スル續約ハ明治三十五年一月ヨリ
同三十九年十二月マテ五ケ年間仍ホ其ノ効ヲ繼續セシムルモノトス

第二條

舊約第一條ニ掲クル貸貸借料金額一ケ年金二千五百圓宛ニ増額スルコトヲ約ス
右第二號續約ヲ締結シタル證トシテ各自記名調印スルモノナリ

明治三十四年十二月二十五日

山口縣豊浦郡長府村第六百六十六番屋敷居住

子爵毛利元敏代理

財產主管者心 三 島 盛 二 印

同縣同郡豊東前村第三百七十七番屋敷居住

伊 秩 修 平 印

同縣同郡長府村第二百二十二番屋敷居住

白 石 常 鎮 印

同縣同郡豊東前村第三百六十六番屋敷居住

同縣同郡長府村第九百六番屋敷居住

保證人 坂野良造印

保證人 豊永長七印

而シテ右小作人ハ直接小作ヲナスモノニ非ラスシテ鹽田一戸前毎ニ下作人ナルモノニ下作ヲナサシメ小作人ハ地主ヨリ借
リ受ケタル小作料ヲ徵收シ以テ小作人ノ收入トセリ

小作人ト下作人トノ間ニハ規約アリテ定約ノ際證據金トシテ一戸前百五十圓ヲ徵收シ下作年限ハ三ケ年ト定メ下作料金
(當濱ハ二十一戸前アリテ地味ノ良否ニヨリ下作金ヲ高低シ最高二百五十圓最低二百五十圓位)ヲ年三回ニ徵收シ(五月、七
月、九月)右證據金ハ滿期ノトキ下作金ニ算入スルノ契約ナリ

又小作人ハ下作人ノ日常需用品即濱子ノ飯米代金及薪炭ノ購入費等凡テ之ヲ繰替支辨シ而シテ鹽賣上代金ノ内ヨリ之ヲ差
引計算ス尤モ年ノ豊凶及鹽價ノ高低ニヨリ現實下作人ノ困難ヲ窮ムル際ニハ小作人ニ於テ特ニ下作料ヲ減免スルコトアル
ノ定約ナリ

第十章 組合

一 鹽製造組合ノ組織、規定及沿革 當濱全體(千鳥、龜、古三濱共)ハ明治三十二年防長鹽業組合ニ加入シ以來尙ホ繼
續加入ナシ居レリ其他當地方ニ同上組合等別ニ設立ナシ

二 鹽販賣組合ノ組織、規定及沿革 明治二十年當地白石四郎ナルモノ鹽賣捌事務所ヲ設立千鳥、龜、古三濱全濱ノ
製鹽悉皆ヲ賣捌キ此ノ賣上金高ノ内三分ヲ控除手數料トシテ徵收シ居レリ

其後明治二十五年以來當小作人伊秩修平白石常鎮等モ同組合員トナリ今尙ホ繼續專賣法施行後ハ製鹽事業ニ付納付其他ノ
件ヲ掌リ居レリ

三 燃料其他需用品購買組合組織、規定及沿革 當所ニハ別ニ右等名儀ノ組合ハナシト雖モ前述鹽賣捌事務所ニ於テ

凡テ需用品ヲ購買シ之ヲ各下作人ニ配與シ鹽賣上代金ノ内ヨリ控除徵收シ尙ホ品物代金ノ五分ニ相當スル金ヲ利子及手數料トシテ徵收スルコト、ナセリ

第十一章 試驗

第十二章 輸出入及試賣

第十三章 鹽田以外ノ製鹽裝置及方法

第十四章 燒鹽

第十五章 再製鹽

右五章該當記事ナシ

第十六章 鹽田ノ地價等

一 鹽田ノ地價、時價、小作料及鹽田其他ノ土地トノ比較

鹽田ノ地價(一戸前反別一町七反七畝十二步)(千鳥十番濱)

此地價 二百三十八圓十五錢

小作料 二百九十五圓

時價 二千八百圓

時價ハ普通田地ニシテ前記ノ反別アレハ三千五百圓ノ時價アリ(一俵加調六十五圓)畑地ハ田地ノ半價位ナリ鹽田ノ田畑ニ比シ

テ安價ナレハ賣買上ニ於テ普通田畑ハ一般ニ希望者アルモ鹽田ニ至ツテハ一部ノ人ニアラサレハ買受サルニ依リ競争者ナ

キニ依ル加之當濱全部ハ毛利子爵ノ所有ニテ殆ント世襲財産ノ如ク思維セラレ居ルヲ以テ世間其價格ヲ認メ居ルニ止マリ

未タ曾テ賣買シタルコトナシ

且鹽田ハ元ト海面築造シタルモノナレハ畑トナスニハ土地低ク田畑トナスニハ水利ノ便ヲ缺クヲ以テ普通ノ田地ニ比シテ

(十六) 三田尻鹽務局長府出張所ノ部

第十一章 試驗 第十二章 輸出入及試賣 第十三章 鹽田以外ノ製鹽裝置及方法 第十四章 燒鹽 第十五章 再製鹽 第十六章 鹽田ノ地價等

(十六) 三田尻鹽務局長府出張所ノ部

第十六章 鹽田ノ地價等

地位劣等ナルニ由ルナリ